

27(A). 山水畧画式【さんすいりゃくがしき】(外)

(刊) 大本一巻一冊
寛政十二年(1800)初春刊

(江戸) 蕙齋【けいさい】筆
江戸 須原屋市兵衛【すはらや・いちべえ】板
[江戸] 春風堂野代柳湖【しゅんぷうどう・のしろ・りゅうこ】[刻]
彩色版



27(B). 山水畧画式【さんすいりゃくがしき】(外)

(刊) 大本一巻一冊
寛政十二年(1800)初春刊

(江戸) 蕙齋【けいさい】筆
江戸 須原屋市兵衛【すはらや・いちべえ】板
[江戸] 春風堂野代柳湖【しゅんぷうどう・のしろ・りゅうこ】[刻]
彩色版
後印本



見返しに梶色で「蕙齋先生／山水／申椒堂」とするのが初版。序文、跋文の類は無い。江戸から諸国の山水の名所を画くもので、見開き一丁を用いた大図から、半丁に二所づつを画く小図迄、区区であるが、何れも画面には全く破端はなく、どんな小さな図柄も、たとえば四倍・五倍の大画面に拡大しても見事に収まる辺りが、その手腕の確かさを示している。

十三丁表、十四丁裏の見開き画面となる「日本橋」図の中央に白く富士山が見えるのが初版本。後印本は富士の姿が消える。(A)は初版本。(B)はその後印本。